



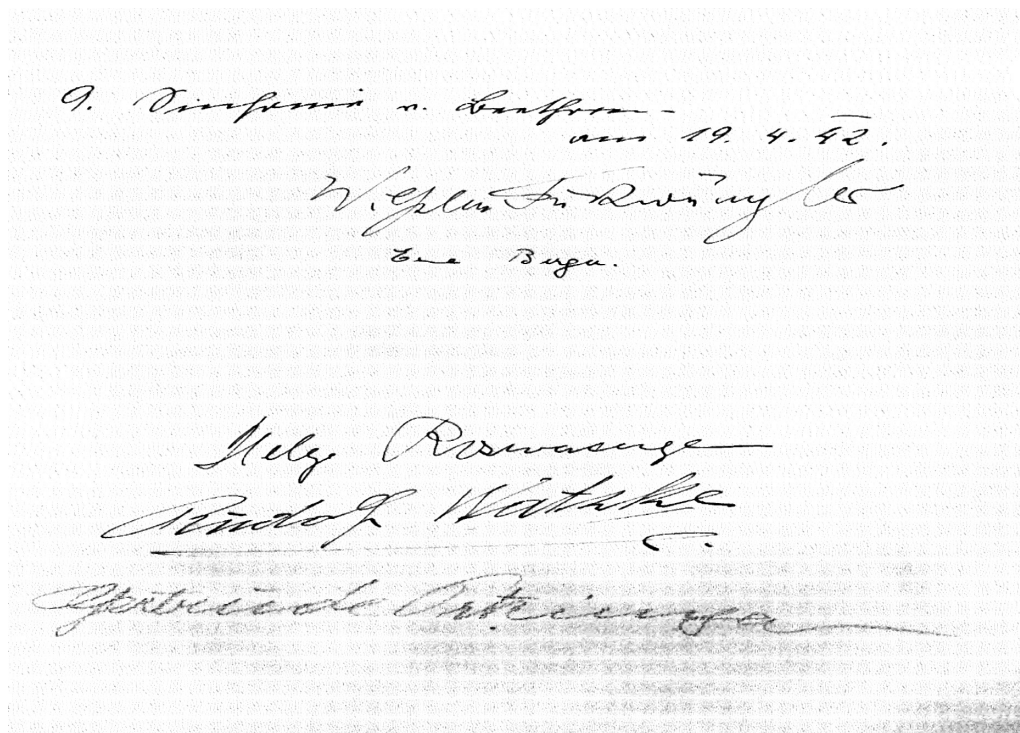
ヒットラーの第九交響曲

伊藤 光 昌*

1998年正月、ドイツフランクフルトアムマイン市よりダンボール2箱が、「彼女の亡くなる前の言により貴方に送る」との短い覚書と共に届けられた。中身は、1930年代半ばより1960年代初頭にかけて欧州米国で活躍し、前年9月に亡くなったアルト歌手 ゲルトゥルーデ ピッツインガー（1904～1997）の膨大な演奏会プログラムと新聞雑誌評の切抜き、写真等であった。その資料の中に、1942年4月19日の演奏会の出演者のサインが入っていた（写真）。

1942年4月19日アドルフ ヒットラー誕生日

前夜祭が、国民啓蒙・宣伝大臣ヨーゼフ ゲッペルス主催の下ナチス党大会としてベルリンで盛大に祝われた。この大会で演奏されたルードヴィッヒ ファン ベートーベンの第九交響曲最終楽章の最後の部分の映像が残っている。演奏者は、ヴィルヘルム フルトベングラー指揮、ベルリンフィルハーモニー交響楽団、ソプラノ エルナベルガー、アルト ゲルトゥルーデ ピッツインガー、テノール ヘルゲ ロスベンゲ、バスルードルフ ヴァツケ、ブルーノ・キッテル合唱団であった。党大会の様子はナチスの宣伝として



ベートベン第九交響曲 42年4月19日（エルナ ベルガーの手書き）
サイン上から ヴィルヘルム フルトヴェングラー、エルナ ベルガー、ヘルゲ ロスヴェンゲ
ルードルフ ヴァツケ、ゲルトゥルーデ ピッツインガー

*株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ代表取締役会長

全世界に放送され、映像も宣伝として使われた。

私が尊敬し20年余に亘り交遊のあったアルト歌手ゲルトゥルーデ ピッツインガーは、この演奏により戦後の活動を制限されることになる。1938年及び1939年の米国への演奏旅行では大成功を納め、米国への亡命を生活の保障と共に各方面より薦められたが、家族や友人の顔が脳裏を掠め里心がついて帰って来た、と言っていた。その彼女が、戦時中について私に次の様に語っている。「今当時を振り返ると、ドイツに留まったことは良かったのではないか。我々の音楽が、悲嘆にくれた人々の悲しみを一時ではあったが忘れさせることが出来たから。音楽は彼らにとって光明であったのであろう。現在では最早当時を想像できないと思う。人々は音楽を聴くために長時間歩いて音楽会場にやってきた。演奏はよく空襲で中断され、それが数時間に及んでも、空襲警報解除後は再び会場に戻って来て、音楽会は深夜まで続け

られた。」

フルトベングラーについて語る時の彼女は、常に高揚気味であった。尊敬とそれ以上のものを彼に感じていたのであろう。彼は、エルナ ベルガーと彼女を「二人のおちびちゃん」と親しみを込めて呼んだそうだ。フルトベングラーが、両腕を肩の高さまで上げると、その下に二人が入ったからとのこと。1937年5月12日ロンドン ウェストminster大聖堂でジョージ6世の戴冠式が行われ、その記念演奏会でも「二人のおちびちゃん」はフルトベングラーと共演している。

この第九交響曲全曲の音源は、一市民が持っていた録音テープで、それがCD化されたと聞く。その円盤を手にとると、第三帝国に翻弄されつつも、戦前、戦中、戦後を通して活躍した今は亡き名歌手ゲルトゥルーデ ピッツインガーに思いを馳せずにはいられない。